

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 中間評価

学校名	唐津市立佐志中学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「よりよい佐志中学校づくりのためのアンケート」の結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価していたというものの、「佐志中学校に通って（通わせて）よかった」の質問に対して生徒は83.1%、保護者は80.8%であったので、今年度は90%越えを目指す。 ・職員の間で共通理解のもと今年度も継続して校内研究を主軸において、授業改善を推進し学力向上を図る。 ・一層の生徒の意識向上を図るとともに、家庭との連携を強化することで、家庭学習の充実、スマホ利用時間の縮減等、望ましい生活習慣の形成を目指す。 		
2 学校教育目標	確かな学力を身につけ、健康で心豊かで、生きる力を持つ生徒の育成		

3 本年度の重点目標	<p>(1) 学力向上のために授業と家庭学習の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒理解と仲間づくりを通して人権・同和教育を推進する。</p> <p>(3) SDG'sを意識した教育活動の展開を図る。</p>		
------------	---	--	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1) 共通評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
	取組内容	成果指標 (数値目標)			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	「学力向上」については、研修ごとに共通理解でき、教師自身の授業の振り返り及び指導法改善につながったが、うまく「マイプラン」を活用できなかった。
	○意欲的に学習に臨む生徒の育成を図る	○授業に一生懸命に取り組んでいる生徒を85%以上にする	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。 ・「振り返り」を確実に設定する。	B	・アンケートにおいて授業に一生懸命に取り組んでいる生徒は80%であった。 ・授業における「話し合う活動」の設定はコロナの影響でうまくできていない。 ・「振り返り」の活動は多くの授業で行われている。
	○家庭学習の習慣化	○毎日家庭学習に取り組む生徒を80%以上にする	・教材研究として授業と関連した課題の作成に取り組む。	B	・毎日の課題の内容は、授業の予習及び復習となるプリントや問題に取り組みせ、80%以上の生徒が提出できているが、自主的な学習については学年により、取り組みせ方が異なる。また、学習内容については検討の余地がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳性についてのアンケートで肯定的な回答をした生徒と保護者の割合をそれぞれ80%以上にする。	・平和教育や安全教育に関する授業や掲示に取り組む。	B	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒77%、保護者82%であった。 ・生徒が道徳的な考えを深められるような教材研究を行う。 ・保護者や地域の方に開かれた、ふれあい道徳を実施した。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめアンケートで、学校の取組に肯定的な回答をした生徒・保護者の割合をそれぞれ80%以上にする。	・毎月生活アンケートをとる。 ・生徒指導部会(週1回)と生徒理解協議会(月1回)を通して、学年を越えた情報交換を行う。	B	・毎月心のアンケートを実施し、いじめの早期発見・対応に努めた。中間評価アンケートで学校に肯定的な回答をした割合は76%であった。 ・生徒指導部会と生徒理解競技会はほぼ定期的に開催することができ学年からの情報交換を行うことができた。
	◎キャリア教育の推進を図る。	○将来の夢や希望する職業を持つ生徒を70%以上にする。	・職業や高校・大学について機会を捉えて紹介する。	B	・学年によりやばらつきはあるが、全体では72%の生徒が将来の夢や希望する職業もっている。3年生の進路に関わる取組は確実に実施できているが、2年生の職場体験が延期となっている。
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	○睡眠時間7時間以上、スマホ等の使用時間2時間以内の生徒を90%以上にする。	・規則正しい生活やスマホ依存性について通信等で啓発を行う。 ・スマホの使い方について講師を招いて講演会を行う。	B	・睡眠時間とスマホ使用時間についての達成率は58%だった。今後、通信や集会で呼びかけ望ましい生活習慣の形成を目指す。 ・スマホの使い方については6月に講師を招き講演を行った。今後も注意喚起を徹底する。
	○朝食の喫食率向上を図る。	○朝食の喫食率を90%以上にする。	・朝食の効果について啓発を行う。	B	・朝食の喫食率は86%であった。 ・「朝食の効果についての啓発」を保健だより等を用いて啓発していくとともに、朝食を食べない生徒の個別相談を実施する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動休養日の設定を徹底する。 ・部活動休養日を定時退勤日とする。	B	具体的取り組みについてはほぼ達成できているが、働き方改革の推進への肯定的な評価は80%であった。今後は業務改善や行事の精選及び年休の取得推進を一層進めるとして、休養日以外の早い時間の退勤を実現し職員の負担感の軽減を図る。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
	取組内容	成果指標 (数値目標)			
○ESDの推進	○全教科・領域において、SDG'sを意識した教育を展開する。	○3つ以上のSDG'sを意識して生活を送ることができている生徒の割合を90%以上にする。	・全教科・領域において、また教科横断的にSDG'sを扱う単元開発を積極的に行う。	B	中間評価における達成率は57%であった。生徒総会で会長からの紹介があり、スタートラインにつくことができた。現在は、各教科における個別の取り組みが中心となっているため、今後はSDG'sの認知度を高め、組織的な取組を推進していく。